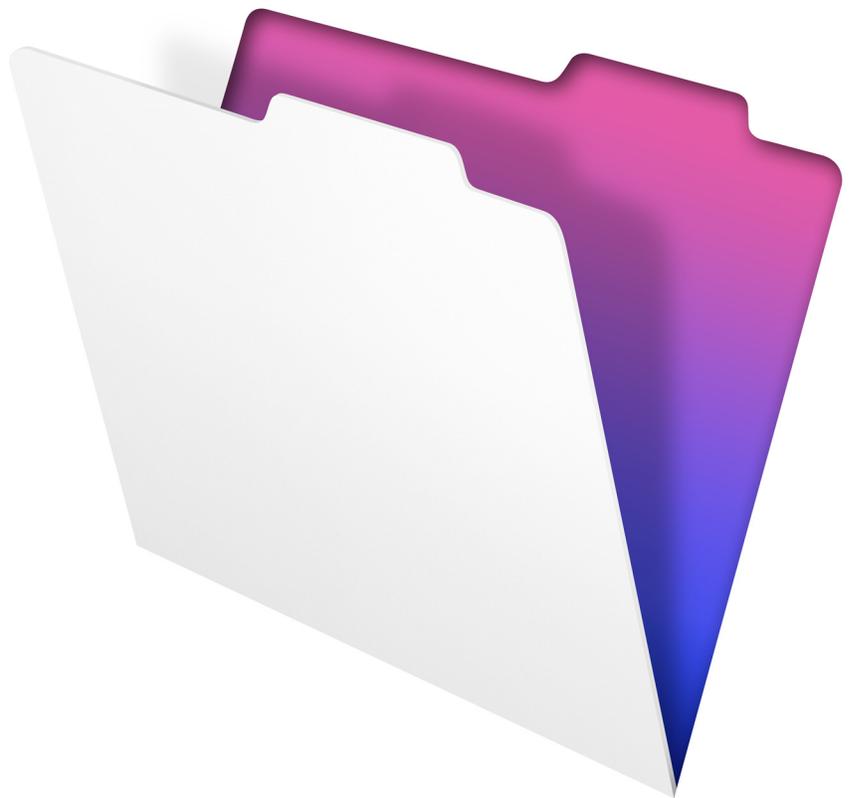


FileMaker® Go 1.2

開発ガイド



© 2011 FileMaker, Inc. All Rights Reserved.

FileMaker, Inc.

5201 Patrick Henry Drive

Santa Clara, California 95054

FileMaker、ファイルメーカーは、FileMaker, Inc. の米国及びその他の国における登録商標です。ファイルフォルダロゴは、FileMaker, Inc. の商標です。

FileMaker のドキュメンテーションは著作権により保護されています。FileMaker, Inc. からの書面による許可無しに、このドキュメンテーションを複製したり、頒布することはできません。このドキュメンテーションは、正当にライセンスされた FileMaker ソフトウェアのコピーがある場合そのコピーと共にのみ使用できます。

製品及びサンプルファイル等に登場する人物、企業、E メールアドレス、URL などのデータは全て架空のもので、実在する人物、企業、E メールアドレス、URL とは一切関係ありません。スタッフはこのソフトウェアに付属する「Acknowledgments」ドキュメントに記載されます。他社の製品 及び URL に関する記述は、情報の提供を目的としたもので、保証、推奨するものではありません。これらの製品の性能に関して、FileMaker, Inc. は一切責任を負いません。

詳細情報については www.filemaker.co.jp をご覧ください。

第01版

目次

第1章

FileMaker Go 用のデータベースのセットアップ	5
FileMaker Go クライアントとの FileMaker Pro ファイルの共有	5
FileMaker Server でのデータベースのホスト	5
FileMaker Pro でのデータベースのホスト	6
データベースへの接続	7
ファイル転送について	7
転送したファイルへのインポートと転送したファイルからのインポート	8

第2章

FileMaker Go と FileMaker Pro の違い	11
サポートされていない機能	11
動作の違い	11
モード	11
ソート	11
日付と時刻ピッカー	12
カスタムメニュー (FileMaker Pro Advanced)	12
印刷	12
レコードを PDF ファイルとして保存	12
ログインとセキュリティ設定	12
パスワードで保護されているファイルの開き方	12
休止状態後のログイン	13
FMP7Script プロトコルを使用してファイルを開く	13
セキュリティに関するヒント	14
デザインに関する考慮事項	15
レイアウトのデザイン	15
フォントの選択	15
テキストスタイル	16
デバイス上でのデータ入力に関する考慮事項	16
外部キーボード	17
スクリプト処理と計算	17
スクリプトと関数の動作	17
サポートされていないスクリプトステップ	21

4 FileMaker Go デベロップメントガイド

第 1 章

FileMaker Go 用のデータベースのセットアップ

FileMaker® Go を使用することによって、iPhone や iPod touch、iPad 上で FileMaker Pro のデータベースをインタラクティブに操作することができます。デバイス上でデータを変更するとホストコンピュータ上のデータも更新されます。逆に、ホストコンピュータ上でデータの更改がデバイス上にも反映されます。また、データベースをデバイスに転送して「オフライン」で使用することもできます。

データベースの作成や設計、管理にはデスクトップ上の FileMaker Pro を使用します。デバイス上では、レコードの追加、検索、ソートだけでなく、スクリプトなどのタスクを実行することができます。

このガイドでは、FileMaker Go で使用できるようにデータベースをセットアップする方法について説明します。使用に関する詳細は、デバイス上で「FileMaker Go ヘルプ」を参照してください。初めて FileMaker Pro をお使いになる場合は、FileMaker Pro のマニュアルを参照してください。

FileMaker Go クライアントとの FileMaker Pro ファイルの共有

FileMaker Go は、FileMaker Server または FileMaker Pro でホストされているファイルやランタイムソリューションで機能します。

FileMaker Server でのデータベースのホスト

FileMaker Pro データベースファイルを共有する前に、ホスト用のファイルを用意する必要があります。次の手順では、このプロセスの概要を説明します。

FileMaker Go でファイルを使用できるようにするには、次の操作を行います。

1. クライアントが共有アクセスに使用するアカウントとアクセス権セットを編集します(たとえば、[FileMaker ネットワークによるアクセス])。
2. データベースファイルを FileMaker Server にアップロードします。データベースのアップロードアシスタントを使用して、コンピュータから FileMaker Server にデータベースファイルを転送します。または、データベースのアップロードアシスタントを使用せずに、FileMakerPro データベースファイルを手動で FileMaker Server にコピーすることができます。
3. Admin Console の [データベース] ウィンドウでファイルの状態を確認し、FileMaker クライアントがファイルを使用できるかどうかを確認します。

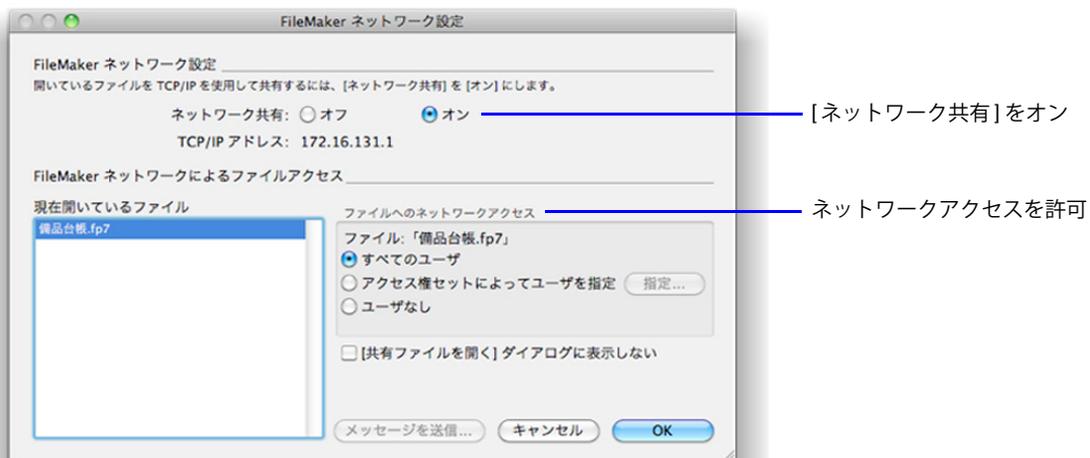
FileMaker Server を起動すると、デフォルトデータベースフォルダおよび追加データベースフォルダ(指定されている場合)にある FileMakerPro データベースはすべて自動的に開いてホストされます。サーバー管理の詳細については、FileMaker Server のマニュアルを参照してください。

FileMaker Pro でのデータベースのホスト

次の手順では、FileMaker Pro での ピアトゥピア共有について説明します。

FileMaker Go でファイルを使用できるようにするには、次の操作を行います。

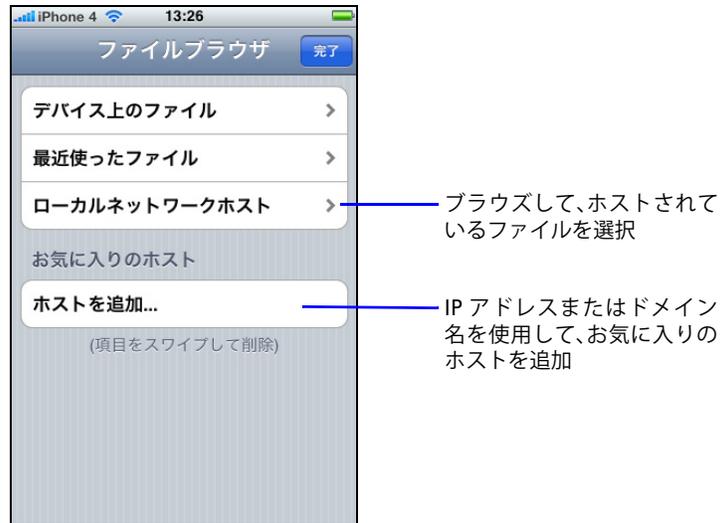
1. FileMaker Pro でファイルを開きます。
2. [ファイル] メニュー > [共有設定] > [FileMaker ネットワーク ...] を選択します。
3. [FileMaker ネットワーク設定] ダイアログボックスで、[ネットワーク共有:] を [オン] に設定します。
4. [現在開いているファイル] の一覧から、ホストするファイルを選択します。
5. [ファイルへのネットワークアクセス] で [すべてのユーザ] または [アクセス権セットによってユーザを指定] を選択します。
6. [OK] をクリックします。



FileMaker Go クライアントのネットワーク共有を有効にするための設定

データベースへの接続

ファイルを共有してホストした後、FileMaker Go でクライアントとしてそのファイルに接続します。



FileMaker Go for iPhone で、ホストされているデータベースに接続

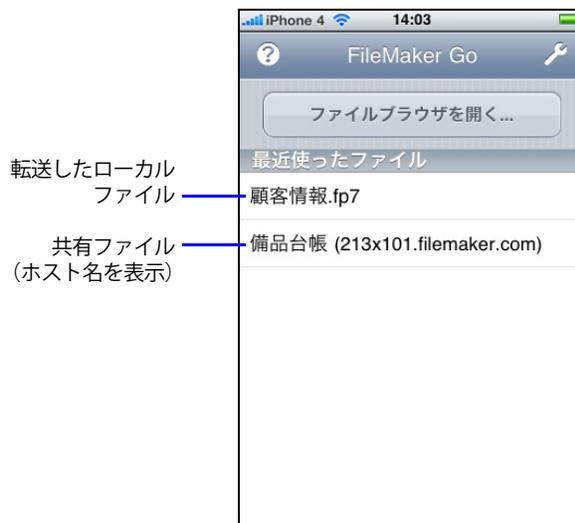
デバイスは、ほかのクライアントと同じように fmapp 拡張アクセス権を使用してホストされているデータベースに接続します。

メモ FileMaker Go は、LDAP で一覧表示される FileMaker Server ホストにアクセスしたり、LDAP ホストの SSL 証明書を表示、および使用することはできません。

ファイル転送について

デバイスへのファイル転送、またはデバイスからのファイル転送の詳細については、「FileMaker Go ヘルプ」を参照してください。

重要 デバイスにファイルを転送すると共有ファイルのコピーが作成されます。iPad、iPhone または iPod touch 上でデータを変更しても自動的に同期されないため、その内容は共有ファイルには反映されません。逆の場合も同様です。FileMaker Pro を使用してデータをインポートします(次のセクションを参照してください)。



転送したファイルへのインポートと転送したファイルからのインポート

[レコードのインポート] スクリプトステップを使用して、デバイス上の FileMaker Pro ファイル(ローカルファイル)のデータを別の FileMaker Pro ファイルにマージすることができます。FileMaker Go に、FileMaker Server または FileMaker Pro へのネットワークアクセスが必要です。

インポートする前に、フィールドの割り当てとインポート順を設定します。インポートする場合、新しいテーブルを作成することはできません。

次のいずれかを行うことができます：

- リモートソースからローカルデータベースへのインポート
- ローカルソースからリモートデータベースへのインポート
- リモートソースからリモートデータベースへのインポート
- ローカルソースからローカルデータベースへのインポート

例 1: リモートソース (**Source.fp7**) からローカルデータベース (**Target.fp7**) にインポートする

1. FileMaker Pro で Source.fp7 と Target.fp7 を開きます。
2. Target.fp7 で「リモートからインポート」スクリプトを作成します。
例: レコードのインポート [ダイアログなし;「Source.fp7」;既存のレコードを更新する;Mac 英語] を行って、お使いのマシンの IP アドレスを使用して、ソースファイルへのパスを設定します。例: fmnet:/192.168.10.10/Source.fp7
3. インポート順を指定します。
4. Target.fp7 を閉じます。
5. Target.fp7 を FileMaker Go に転送します。
6. FileMaker Go で Target.fp7 を開いて、スクリプト「リモートからインポート」を実行します。
ローカルデータベースのデータが、リモートデータベースのデータで更新されます。

例 2: ローカルソース(Source.fp7)からリモートデータベース(Target.fp7)にインポートする

1. Source.fp7 を FileMaker Go に転送します。
2. FileMaker Pro で Target.fp7 を開きます。
3. Target.fp7 で「リモートへインポート」スクリプトを作成します。例:
変数を設定 [FilePath; 値: Get(ドキュメントパス) & "Source.fp7"]
レコードのインポート [ダイアログなし; 「FilePath」; 追加; Mac 英語] (デバイス上のソースファイルへのパスは file:FilePath です。)
4. [スクリプトの編集] ダイアログボックスで [レコードのインポート] スクリプトステップを選択して、[インポート順の指定] を選択します。
[フィールドデータのインポート順] ダイアログにソースフィールドが表示されない場合は、[データソースを指定] を選択して、Source.fp7 への別のパスをパス一覧に追加します。例:
file:FilePath
file:Source.fp7
5. FileMaker Go で、リモートから Target.fp7 を開きます。
6. 「リモートへインポート」スクリプトを実行します。
FileMaker Go で Target.fp7 を使用して、デバイス上の Source.fp7 のデータが、ホストコンピュータ上の Target.fp7 に追加されます。

ヒント [フィールドデータのインポート順] ダイアログで [配置順: 最後に使用した順序] を選択した場合、1 度インポートが完了した後はフィールドの割り当てが保持されます。file:Source.fp7 を参照する必要はなくなります。

第2章

FileMaker Go と FileMaker Pro の違い

この章では、FileMaker Go と FileMaker Pro の違い、および FileMaker Go for iPhone と FileMaker Go for iPad の違いについて説明します。

サポートされていない機能

FileMaker Go では、次の FileMaker Pro の機能は使用できません：

- デバイス上でのデータベースの作成
- テーブル、フィールド、リレーションシップ、データソース、およびアクセス権などのデータベーススキーマの変更
- レイアウト、スクリプト、値一覧、カスタムメニューなどのデータベース構造の変更
- インポート*またはエクスポート
- スペルチェック
- Excel、スナップショットリンクとしてのレコードの保存 / 送信
- 外部関数
- プラゲイン
- ファイルのホスト
- インスタント Web 公開

* FileMaker Go バージョン 1.1.1 以降では、1 つの FileMaker Pro ファイルから別の FileMaker Pro ファイルへインポートすることができます。

動作の違い

モード

FileMaker Go では、レイアウトモードとプレビューモードはサポートされていません。

ソート

表形式では、フィールドの列ヘッダをタップしてレコードをソートすると、昇順、降順、未ソートのいずれかの状態が表示されます。そのフィールドが以前に複数のフィールドを使ったソートに使用されていた場合、そのフィールドのソート方向は変化しますが、他のフィールドの以前のソート順は変化しません。以前のソート条件をクリアするには、列ヘッダを複数回数タップしなければならないことがあります。

日付と時刻ピッカー

FileMaker Go とデスクトップクライアントには、次のような違いがあります：

- FileMaker Go の時刻 / タイムスタンプピッカーでは、秒または小数値は使用できません。フィールドに秒を入力することができます。スクリプト処理、または計算された時刻ではデバイス上で秒を表示します。
- iPad では、日付ピッカーがアクティブな場合はキーボードもアクティブのままとなります。
- デバイスのカレンダーが変更されると、FileMaker Go の日付フィールドのデータが変更される可能性があります。

カスタムメニュー (FileMaker Pro Advanced)

FileMaker Go では、次の機能は使用できません：

- デスクトップで取り除かれた項目を取り除く。メニュー項目は FileMaker Go に表示されますが、無効になります。
- 既存の FileMaker Go メニュー項目に割り当てないメニュー項目の追加。
- カスタムメニューによるクイック検索メニュー項目の上書き。クイック検索動作の上書きは可能です。
- カスタムメニューによるレコード保存およびレコード終了の上書き。
- カスタムメニュータイトルでのアンパサンド(&)の表示。

印刷

- FileMaker Pro でファイルに設定した印刷オプションは、FileMaker Go の同じファイルの印刷オプションには影響しません。逆の場合も同様です。
- FileMaker Pro のレイアウトでページ余白を指定しない場合、FileMaker Go ではプリンタのデフォルトの余白が使用されます。この余白は、プリンタやプリンタドライバによって異なる可能性があります。ラベルや定型フォームへ印刷する場合のように、正確な間隔設定が必要なレイアウトを印刷する場合は、必ずページ余白を指定してください。

レコードを PDF ファイルとして保存

レコードを PDF ファイルとして保存すると、FileMaker Go はそのウインドウ名を PDF ファイル名として使用します。

ログインとセキュリティ設定

このセクションでは、保護されているファイルの開き方と、休止状態後のログイン方法について説明します。また、データベースのセキュリティを確保するためのヒントも説明します。

パスワードで保護されているファイルの開き方

保護されているファイルを開こうとすると、アカウントとパスワードの指定を求めるダイアログが表示されます。FileMaker Go は次の設定を指定された順序で確認して、保護されたファイルを開く方法を決定します。どの設定も使用されていない場合は、ログイン情報を入力してファイルを開く必要があります。

1. URL プロトコル

FileMaker Pro では、共有されているリモートの FileMaker Pro ファイルを開くために、URL で FMP7 プロトコルを使用することができます。13 ページの「FMP7Script プロトコルを使用してファイルを開く」を参照してください。

2. 自動ログインするための [ファイルオプション] 設定

FileMaker Pro では、[ファイルオプション] 設定を使用して、データベースを開く際に特定のアカウントとパスワードを使用して自動的にログインすることができます。

3. ユーザによる手動上書き

FileMaker Go では、デフォルトのログイン情報ではなく別のアカウント名でログインするときは、ファイルを開く際にファイル名をタッチしたままにします。指を放すと、別のアカウント名とパスワードを入力するためのダイアログボックスが開きます。

休止状態後のログイン

デバイス上で [ホーム] ボタンをタップすると、すぐにアプリケーションが終了します。変更の保存を確認するメッセージは表示されません。FileMaker Go は、ファイルの状態を保存して休止状態に入ります。着信通話を受けたり、[Safari で開く] を選択した場合も、FileMaker Go は休止状態に入ります。

FileMaker Go が休止状態になった場合、次の場合を除き、ファイルに戻るにはユーザ名とパスワードを再入力する必要があります。

- ゲストアカウントを使用している場合。
- 使用したユーザ名とパスワードが、FileMaker Pro の [ファイルオプション] ダイアログボックスで設定したユーザ名とパスワードに一致する場合。
- 拡張アクセス権があり、それらのアクセス権に対してキーワード [fmrestorelogin] (小文字) が定義されている場合。

どの設定にも該当しない場合は、ログイン情報を入力して、休止状態のファイルを開く必要があります。

FMP7Script プロトコルを使用してファイルを開く

FileMaker Pro では、FileMaker Pro 共有ファイルを開くために、URL で FMP7 プロトコルを使用することができます。例:

```
[<][URL:]FMP7://[アカウント:パスワード@[ネットアドレス]/データベース名[>]
```

FileMaker Go の FMP7Script プロトコルは、FMP7 プロトコルを拡張します。FileMaker Pro 共有ファイル、休止状態のファイル、デバイス上のローカルデータベースファイルで指定されたスクリプトを開いて実行したり、他のアプリケーションと通信するには FMP7Script を使用します。

例 1: 共有ファイルの開き方

IP アドレスが 192.168.10.0 のホストマシンで「クライアントのリストアップ」というスクリプトを含むクライアント.fp7 という名前のファイルを開きます。

```
FMP7Script://192.168.10.0/クライアント.fp7?script=クライアントのリストアップ
```

例 2: 休止状態のファイルの開き方

FileMaker Go で休止状態の「クライアントのリストアップ」というスクリプトを含むクライアント .fp7 という名前のファイルを再開します。

```
fmp7script://$/クライアント.fp7?script=クライアントのリストアップ
```

メモ FMP7Script を使用すると、FileMaker Go はまず休止状態のすべてのファイルを復元してから、FMP7Script を処理します。

例 3: ローカルファイルの開き方

デバイス上で「クライアントのリストアップ」というスクリプトを含むクライアント .fp7 という名前のローカルファイルを開きます。

```
fmp7script://~/クライアント.fp7?script=クライアントのリストアップ
```

例 4: スクリプトにパラメータを渡して、ローカル変数を定義する

IP アドレスが 192.168.10.0 のホストマシンで「クライアントのリストアップ」というスクリプトを含むクライアント .fp7 という名前のファイルを開きます。また、上位クライアントのパラメータを指定し、ローカル変数 \$リスト上位数に 10 の値を指定します。

```
FMP7Script://192.168.10.0/クライアント.fp7?script=クライアントのリストアップ&param=上位クライアント&$リスト上位数=10
```

メモ

- ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。スクリプト名では、大文字と小文字は区別されません。
- ファイル名の拡張子「.fp7」は必須ではありません。
- 同一の FMP7Script で、複数の変数を定義することができます。
- リンクにスペースが必要な場合は、すべてのスペースを「%20」に置き換えます。

アドレスでアカウントとパスワードを指定することができます(休止状態のファイルを開く場合を除く)。

セキュリティに関するヒント

不正アクセスを制限するには:

- デバイスの電源を切る前に、[ホーム] ボタンをタップして FileMaker Go を終了する。
- デバイスでセキュリティパスコードを使用する。
- 再ログインを必要としないユーザにのみ、[fmrestorelogin] キーワードを設定する。

メモ

- FileMaker Go では、IPv6 ファイル参照またはアドレスがサポートされません。
- ホストからクライアントを終了するように指示があった場合に 30 秒間反応がないと、FileMaker Go がデータベースの終了を試行し、警告メッセージは閉じられます。
- デバイス上でファイルを修復することはできません。

デザインに関する考慮事項

レイアウトのデザイン

デバイス上にデータを表示するためのレイアウトをデザインします。たとえば、デバイス上で次の操作を行うことはできません：

- 表示形式やレイアウトの削除
- フィールドの追加または削除
- [レイアウト]メニューに表示するように設定されていないレイアウトへの切り替え(ナビゲーションボタンを使用する場合を除く)
- 現在の日付、時刻またはタイムスタンプを挿入するメニューの使用(ボタンを使用する場合を除く)
- 値一覧の編集(ドロップダウンリストとポップアップメニューで [値一覧の編集を許可] がサポートされている場合)
- ポップアップヘルプの表示
- タブコントロール名での「...」などのリーダー文字の表示

フォントの選択

次の表は提案されるフォントの例です(推奨ではありません)。デスクトップやモバイルデバイス上でサポートされないフォントもあります。また、iOS でサポートされるフォントは将来変更される可能性があります。使用を予定しているすべてのプラットフォームで、必ずデータベースをテストするようにしてください。

iPhone と iPod touch	iPad
Arial	Arial
Arial Rounded MT Bold	Arial Rounded MT Bold
Courier	Courier
Courier New	Courier New
Georgia	Georgia
Helvetica	Helvetica
Helvetica Neue	Helvetica Neue
Times New Roman	Times New Roman
Trebuchet MS	Trebuchet MS
Verdana	Verdana
Cochin	Academy Engraved LET
American Typewriter	Baskerville
Apple Gothic	Chalkduster
Marker Felt	Optima
Thonburi	Palatino
Zapfino	Gill Sans
	Futura
	Cochin
	Snell RoundHand
	Didot
	American Typewriter
	Apple Gothic
	Copperplate
	Hoefler Text
	Marker Felt
	Papyrus
	Party LET
	Thonburi
	Zapfino

テキストスタイル

iOS では次のテキストスタイルがサポートされます：太字、斜体、下線、タイトル、大文字、小文字、単語下線（下線として表示）、二重下線。

iOS では次のスタイルはサポートされません：強調表示、字消し線、字間狭く、字間広く、スモールキャップ、上付き、下付き。

デバイス上でのデータ入力に関する考慮事項

- タブ順ではフィールドのみがサポートされます。Tab、Return キーを使用して次のフィールドに移動するように設定できますが、Enter キーを設定することはできません。
- デバイス上の索引からフィールドに値を挿入することはできません。[既存の値を使用してオートコンプリート]を行うこともできません。
- 段落の行揃え、行間、インデントは、オブジェクトフィールドで正しく表示されない場合があります。こうした外観に関する問題を防ぐには、オブジェクトフィールドで中央揃えを使用してください。

- キーストロークを認識するためのスクリプトトリガが設定されているテキストフィールドでは、自動修正は機能しません。
- テキストフィールドでは、テキストスタイルを混在させないようにしてください。1つのテキストオブジェクトにテキストスタイルや段落スタイルが混在している場合、FileMaker Go ですべてのテキスト書式が表示されないことがあります。FileMaker Go で特定のテキストフィールドを編集すると、そのフィールドのすべてのスタイルが標準テキストに変わります。
- 1度に編集できるテキストサイズは 64K です。テキストエディタは、単語と単語の間で文を切り詰めるため、編集できるテキストの長さは変わります。
- iPhone 上のフォントでは、ディセNDER(例:「g」)やアセNDER(例:「h」)が短くなる可能性があるため、注意する必要があります。
- アジア言語: 縦書き文字とふりがなは使用できません。キーストロークを認識するためのスクリプトトリガが設定されているテキストフィールドでは、IME(input method editor)が機能しません。

モバイルデバイスでの一般的なデザインに関する考慮事項については、Apple Developer Web サイトを参照してください。

外部キーボード

外部キーボードでは、一部のキーストロークの動作が異なります。

機能	FileMaker Go での動作
Tab キー	オンスクリーンキーボードを表示するフィールドタイプで使用可能。 Shift-Tab キーは使用不可。
取り消し、やり直し、カット、コピー、ペースト、すべてを選択キー	使用可能
レコード間を移動するためのキーストローク(例: control- 下向矢印キー)	使用不可
修飾キー(option や alt など)	使用不可
イジェクトキー	オンスクリーンキーボードの表示切り替え
矢印キー	iPhone: 値一覧、日付/時刻/タイムスタンプピッカーでは使用不可。

スクリプト処理と計算

重要 テストしてスクリプトステップがサポートされることを確認します。

スクリプトと関数の動作

- 現在実行中のスクリプトを中止するには、画面をタッチしままにして、スクリプトの中止を確認します。中止を確認しないと、数秒後に確認が閉じられ、スクリプトは実行を続けます。
- Get(システムプラットフォーム)をモバイルデバイスで実行すると、3 を返します。

- iPhone または iPod touch で Get(アプリケーションバージョン)を実行すると、Go x.x.x を返します。iPad で Get(アプリケーションバージョン)を実行すると、Go_iPad x.x.x を返します。FileMaker Server では、Admin Console に Go x.x.x または Go_iPad x.x.x と表示されます。
- [メールを送信] では、[ダイアログなしで実行]を使用することはできません。デバイス上にメールが表示されるため、これを手動で送信できます。SMTP から送信される場合を除きます。
- [フィールド内容の全置換]を使ったスクリプトでは、FileMaker Go で置換対象のフィールドとデータを指定するようにユーザに求めるメッセージを表示することはできません。[ダイアログなしで実行]が選択されていない場合、[フィールド内容の全置換] スクリプトステップは実行されません。
- デバイス上でキーボードが非表示になっている場合、[全てを選択] と [選択範囲を設定] スクリプトステップを実行してもテキストは強調表示されません。
- Google マップの URL を使用して [URL を開く] スクリプトステップを実行すると、ブラウザが開きます。その後、[Safari で開く]を選択すると、マップアプリケーションが開きます。
- スクリプトにウインドウを非表示にするコマンドが含まれる場合、FileMaker Go はウインドウを非表示にしますが、表示されている開かれたウインドウの順序を変更します。
- FileMaker Go を休止状態にすると、現在実行中のスクリプトは中止されます。
[ユーザによる強制終了を許可] がオンになっている場合、FileMaker Go を再開すると以前の状態に戻ることができます。
[ユーザによる強制終了を許可] がオフになっている場合、FileMaker Go は休止状態には入らずに終了します。
- GetLayoutObjectAttribute 関数は、グラフのコンテンツ属性の PNG および JPEG イメージのみを返します。

[名前を付けて保存] スクリプトステップ

FileMaker Go で、[保存/送信]>[データベース...]をタップするか、[名前を付けて保存] スクリプトを実行すると、作成されたファイルが [デバイス上のファイル] リストに表示されます。

スクリプトステップのオプション、[ファイルを添付した電子メールの作成] と [ファイルを自動的に開く] は、FileMaker Go で次のように動作します。

ファイルが添付された電子メール	自動的に開く	FileMaker Go での動作
オン	オフ	データベースが添付された電子メールが作成される
オン	オン	データベースが添付された電子メールが作成され、FileMaker Go でデータベースが開き、デバイスにデータベースが保存される
オフ	オン	FileMaker Go でデータベースが開き、デバイスにデータベースが保存される
オフ	オフ	デバイスにデータベースが保存される

メモ オプション [最適化コピー (サイズ小)] と [データなしのコピー] は、FileMaker Go で [名前を付けて保存] スクリプトを実行する場合は使用できますが、FileMaker Go で、[保存/送信]>[データベース...]を手動でタップする場合は使用できません。

【レコードを PDF として保存】スクリプトステップ

FileMaker Go で、[印刷]>[PDF...]>[保存]をタップするか、[レコードを PDF として保存]スクリプトを実行すると、作成されたファイルが [デバイス上のファイル] リストに表示されます。

メモ [レコードを PDF として保存]スクリプトステップの出力ファイルパスが指定されていない場合、FileMaker Go はそのウインドウ名を使用して PDF ファイルを保存します。

一部の [レコードを PDF として保存]スクリプトステップオプションは、次の場合はサポートされません：

- 既存の PDF にレコードを追加する
- Acrobat バージョンを選択する
- [セキュリティ] タブで、[印刷] および [編集] オプションを選択する
- 画面読み上げソフトウェアを可能にするオプションの選択を解除する
- [初期表示形式] タブのオプション

スクリプトステップのオプション、[ファイルを添付した電子メールの作成]と [ファイルを自動的に開く] は、FileMaker Go で次のように動作します。

ファイルが添付された電子メール	自動的に開く	FileMaker Go での動作
オン	オフ	PDF が添付された電子メールが作成される
オン	オン	PDF が添付された電子メールが作成され、FileMaker Go で PDF が開く
オフ	オン	FileMaker Go で PDF が開く
オフ	オフ	デバイスに PDF が保存される

【印刷設定】スクリプトステップ

FileMaker Go で [印刷設定]スクリプトステップを実行すると、ダイアログを表示することなく、FileMaker Go の [印刷設定]ダイアログの用紙サイズ、印刷の向き、拡大縮小オプションを設定できます。

メモ [ダイアログなしで実行]オプションは、FileMaker Go の [印刷設定]スクリプトには影響しません。

【印刷】スクリプトステップ

[ダイアログなしで実行]オプションが選択されていない場合、FileMaker Go で [印刷]スクリプトステップを実行すると、[印刷設定]ダイアログが表示されます。ダイアログで設定を選択し、[印刷]をタップしてファイルを印刷できます。

[ダイアログなしで実行]オプションが選択されている場合は、このスクリプトを実行すると [印刷]ダイアログが表示されます。

メモ

- [印刷]スクリプトで設定した部数と両面オプションは、FileMaker Go の印刷設定に影響しません。
- デバイスで印刷がサポートされない場合は、[印刷設定]スクリプトまたは [印刷]スクリプトを実行すると、エラーコード 3 を返します。FileMaker Go に警告は表示されません。

【フィールド内容のエクスポート】スクリプトステップ

FileMaker Go で、[保存/送信]>[フィールド内容...]をタップするか、[フィールド内容のエクスポート] スクリプトを実行すると、作成されたファイルが [デバイス上のファイル] リストに表示されます。

メモ FileMaker Pro ではテキストが UTF-16 でエクスポートされますが、FileMaker Go では UTF-8 でエクスポートされます。

スクリプトステップのオプション、[ファイルを添付した電子メールの作成] と [ファイルを自動的に開く] は、FileMaker Go で次のように動作します。

ファイルが添付された電子メール	自動的に開く	FileMaker Go での動作
オン	オフ	フィールド内容が添付された電子メールが作成される
オン	オン	フィールド内容が添付された電子メールが作成され、FileMaker Go でフィールド内容が開く
オフ	オン	FileMaker Go でフィールド内容が開く
オフ	オフ	デバイスにフィールド内容が保存される

メモ

- デフォルトでは、[名前を付けて保存]、[レコードを PDF として保存]、[フィールド内容のエクスポート] スクリプトステップで作成されたファイルは、[デバイス上のファイル] リストに表示され、書類フォルダに保存されます。テンポラリフォルダにファイルを保存するには、[変数を設定] スクリプトステップを使用して、そのスクリプトステップの出力ファイルパスとファイル名を指定するための変数を作成します。ファイルはテンポラリフォルダに保存され、FileMaker Go を終了したり、FileMaker Go が休止状態に入った場合は削除されます。

次の例を使用して、そのファイルを添付した電子メールを作成することができます。

変数を設定 [\$Output; 値: Get (テンポラリパス) & “ サンプル .pdf ”]

レコードを PDF として保存 [ダイアログなし; 「 \$Output 」; 対象レコード]

メールを送信 [電子メールクライアント経由で送信; 宛先: “ linda@glolda.com ”; トピック: “ 請求書 ”; メッセージ: “ テスト ”; 「 \$Output 」]

- デフォルトでは、[名前を付けて保存]、[レコードを PDF として保存]、[フィールド内容のエクスポート] スクリプトステップを実行すると、FileMaker Go が新しい出力ファイルを作成します。スクリプトの実行を続けると、各ファイル名の最後に番号が追加されます。たとえば、サンプルファイルで [レコードを PDF として保存] スクリプトステップを初めて実行した場合、出力ファイル名は サンプル .pdf となります。2 回目にスクリプトを実行した場合、ファイル名は サンプル 1.pdf となります。

複数のコピーを保存せずに、既存の出力ファイルを新しいファイルに置き換える場合は、スクリプトにファイルパスを追加します (file: ファイル名 または filemac: ファイル名)。たとえば、[出力ファイルの指定] ダイアログボックスに “file: サンプル .pdf” または “filemac: サンプル .pdf” と入力すると、このスクリプトを実行するたびに、ドキュメントフォルダ内の サンプル .pdf ファイルは新しいファイルに置き換えられます。

次の例では、レコードが サンプル .pdf という名前の PDF ファイルで保存され、新しいファイルが作成されるか、既存のファイルが上書きされます。

レコードを PDF として保存 [ダイアログなし; 「 サンプル .pdf 」; 対象レコード]

サポートされていないスクリプトステップ

FileMaker Go では一部のスクリプトステップがサポートされません。

重要 サポートされないスクリプトステップを適切に処理しないでスクリプトを実行すると、予想外の動作やデータの損傷の原因となる可能性があります。

エラーコード 4 を返す

次のスクリプトステップは、エラーコード 4「コマンドが見つかりません」を返します。Get(最終エラー)を使用して、このエラーコードをチェックします。

[ユーザによる強制終了を許可] がオンの場合、FileMaker Go でサポートされていないスクリプトステップを示す警告が表示され、スクリプトを続行するか中止するかを選択することができます。

[ユーザによる強制終了を許可] がオフの場合、FileMaker Go でサポートされていないスクリプトステップを示す警告が表示されます。[ユーザによる強制終了を許可] がオフの場合、スクリプトを中止することはできません。

[エラー処理] がオンの場合、サポートされていないスクリプトステップを示す警告は表示されません。

分類	スクリプトステップ
編集に関連するスクリプトステップ	検索/置換を実行
フィールドに関連するスクリプトステップ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 索引から挿入 ■ ピクチャを挿入 ■ QuickTime を挿入 ■ ファイルを挿入
ファイルに関連するスクリプトステップ	新規作成
その他のスクリプトステップ	SQL を実行
切り替え / 移動に関連するスクリプトステップ	プレビューモードに切り替え
レコードに関連するスクリプトステップ	<ul style="list-style-type: none"> ■ レコードのインポート (FileMaker ファイル間でのインポートはサポートされます) ■ レコードのエクスポート ■ レコードを Excel として保存 ■ レコードをスナップショットリンクとして保存

エラーコード 3 を返す

次のスクリプトステップは、エラーコード 3「コマンドが使用できません」を返します。Get(最終エラー)を使用して、このエラーコードをチェックします。

FileMaker Go に、これらのスクリプトステップの警告は表示されません。

分類	スクリプトステップ
フィールドに関連するスクリプトステップ	<ul style="list-style-type: none"> ■ オブジェクトを挿入(Windows) ■ リンクの更新(Windows)
ファイルに関連するスクリプトステップ	<ul style="list-style-type: none"> ■ マルチユーザ設定 ■ ファイルの修復 ■ ファイルを変換
その他のスクリプトステップ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ツールバーの表示 ■ 読み上げ(Mac) ■ Event を送信(Mac) ■ Event を送信(Windows) ■ AppleScript を実行(Mac) ■ DDE コマンドを送信(Windows)
メニュー項目を開くためのスクリプトステップ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保存済み検索を開く ■ ファイルオプションを開く ■ データベースの管理を開く ■ データソースの管理を開く ■ レイアウトの管理を開く ■ スクリプトの管理を開く ■ 値一覧の管理を開く ■ 検索/置換を開く ■ 共有設定を開く
スペルチェックに関連するスクリプトステップ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 選択部分をスペルチェック ■ 現レコードをスペルチェック ■ 対象レコードをスペルチェック ■ 単語を修正 ■ スペルチェックオプション ■ 辞書指定 ■ ユーザ辞書を編集
ウインドウに関連するスクリプトステップ	<ul style="list-style-type: none"> ■ テキスト定規の表示切り替え ■ ウインドウの移動/サイズ変更 ■ 全ウインドウを整列